



定番となった3店合同のご愛読感謝ツアー



読売新聞大阪本社を見学

お客様、ご寄り添いツアーランナ

は27人が参加。今年は実施できなかつたため、兵庫県の中小学生社会体験学習「トライやる・ヴィーク」の一環として、今月、少人数で本社見学を実施する予定だ。正倉院展も昨年（10月27日）は43人、京都御所秋季一般公開も見学する今年（10月31日）は約40人が申し込むなど好評だ。「出先で会つた方から、『また連れで行つてね』と声がかかるんです。旅行好きのご愛読者の中には高齢の方もおられるので、疲れが出ないよう、無理のないスケジュールを考えなければいけないなど難しい面もありますが、頑張つて考えないと」と美和子さん。今、上方落語の定席「天満天神繁

力を持った神戸新聞の販売店主が代わり、「いつの間にかうちが一番の老舗になってしまった」と武藤代表。「新聞離れが心配される時代ですが、他紙の愛読者を読売のご愛読者に出来れば、まだ伸びるはあるし、ご愛読者と強く結びついていれば、他紙に代わられるものでもあります。」『販売店』ではうちが地元紙』の意気込みで頑張りたい」と力強く言う。担当する読売旅行明石営業所の中尾健次長も「ご愛読者のお体にも配慮した、お手ごろで内容が充実したツアーコンサルティング」を強化に役立てられると考えています」とサポートを誓っている。



好評の秋の正倉院展ツアーチラシ

# 親子4代読売一家 愛読者大切に

YC西垂水（神戸市垂水区）の武藤正樹代表（43）は「ご愛読者との長い付き合いを大切」にして、地域密着型のミニコミ紙や読売旅行ツアーを通じ、競合他紙としのぎを削る地域で〈地域一番店〉を目指している。



武藤代表の曾祖父、仙桂氏は大阪読売会相談役を務めるなど読売新聞大阪本社の発展に尽力した販売界の重鎮。親子4代の読売一家である。子どもたちに配達を手伝ったこともあるが、休みはなく、つらい仕事だけに「店を継ぐなんて思ってもいなかつた」が、運送会社に勤めていた時、サービスドライバーの仕事の内容が販売店と同じことに気が付き、読売マネジメント学院を経て、2000年にYJC西垂水を任せられた。

A black and white photograph of a man with glasses and a chef's jacket, standing in a kitchen. He is looking towards the camera. In the background, a woman is visible. The image has a halftone dot pattern.

武藤代表と  
美和子さん

この年の5月には裏面でミニコミ紙「西垂水YY（ワイ）掲示板」を始めた。地元の話題や役立つ情報、「ご愛読者のペットを紹介する「わん☆ダフル！」」「コーナーを中心まとめている。「得（19）情報報」「YY掲示板」は3店共同で「愛読者を中心毎回、計約1万枚を発行する。